

平成30年度8020運動推進特別事業 事業報告

○青年期における歯と口の健康サポーター養成事業
(一般社団法人大阪府歯科医師会委託事業)

1 事業目的

大阪府内における大学・短大・専修学校（以下「学校」とする）における保健担当者「歯と口の健康サポーター」として養成し、「歯と口の健康サポーター」が学校において、学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけを行うことにより、学生の歯科口腔保健の意識向上を図る。

2 事業結果

2-1 歯と口の健康リーダー連絡調整会議の実施

平成30年度事業の実施にあたり、歯と口の健康リーダー（地域における公衆衛生事業の中心的役割を担う歯科医師）と有識者（歯と口の健康サポーター養成プログラム検討会委員）の間で、歯と口の健康リーダー連絡調整会議を行った。

○「歯と口の健康リーダー連絡調整会議」概要

【開催日時】平成30年10月4日（火）17時～18時

【開催場所】大阪府歯科医師会

【講師】大阪府歯科医師会理事 山上 博史

大阪府歯科医師会理事 山本 道也

【協議題】

- (1) 平成30年度事業実施について
- (2) 歯と口の健康サポーター養成研修会について
- (3) その他

【説明内容】

- ・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
- ・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法
- ・「歯と口の健康サポーター養成研修会」の開催方法
- ・歯科口腔保健の重要性についての動機づけの方法
- ・事業施設実施地域の選定
- ・平成29年度事業の検証
- ・その他、事業実施に関わる事項
- ・歯と口の健康リーダーによる学校への普及啓発と実態調査について

【参加者】15名

(参加地区：サポーター養成研修会実施地区11名、周知広報実施地区4名)

2-2 歯と口の健康リーダーによる学校への周知広報と実態調査

大阪府における8地域の二次医療圏のうち、平成30年度は大阪市医療圏に所在する大学・短大・専修学校に対して、「歯と口の健康リーダー」が大学・短大・専修学校（合計14校）に赴き、周知広報及び実態調査を行った。また、併せて平成31年2月7日（木）に実施した「歯と口の健康サポーター養成研修会」への参加を促した。

(1) 周知広報

【周知事項】

- ・「歯と口の健康サポーター手引き」の使用方法
- ・「学生に対する普及啓発用媒体」の使用方法

【調査項目】

- ・学校における保健担当者の有無及び職種
- ・「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応
- ・学校での歯科健診実施状況

【実態調査結果】

表1 学校における保健担当者配置の認識の有無

認識	学校数	(%)
有	6	42.9
無	8	57.1
合計	14	100.0

表2 保健担当者の職種別配置状況（複数回答可）

配置職種	全体		(内) 大学		(内) 短大		(内) 専修学校	
	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)	学校数	(%)
医師	3	50.0	1	100.0	0	0.0	2	50.0
看護師	5	83.3	1	100.0	1	100.0	3	75.0
保健師	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	2	33.3	1	100.0	0	0.0	1	25.0
全体校数	6		1		1		4	

表3 「歯と口の健康リーダー」の周知に対する学校保健担当者の反応

設置	校数	(%)
良い	14	100.0
普通	0	0.0
悪い	0	0.0
合計	14	100.0

表4 学校での歯科健診実施状況

歯科健診	校数	(%)
有	1	7.1
無	13	92.9
合計	14	100.0

2-3 歯と口の健康サポーター養成研修会の実施

「歯と口の健康リーダー」が中心となり、「歯と口の健康サポーター養成研修会資料」（平成26年度事業作成資料）を活用し、大学・短大・専修学校における保健担当者等に対し、学校において「学生に対し歯科口腔保健の重要性について意識づけ」を行うための取り組みを行う「歯と口の健康サポーター」として育成するための研修会を、地域において合計3回行った。

平成29年度に周知広報・実態調査を行った学校（24校）と、平成30年度に周知広報・実態調査を行った学校（14校）に研修会への参加を呼びかけた。研修会への参加校は合計で19校、参加者は合計で26名であった。

【研修会内容】

- ・学校における歯と口の健康づくりの意義について（講義形式）
- ・歯と口の健康づくりに関する基礎知識（講義形式）
- ・歯と口の健康づくりに関する意識向上について（ワークショップ形式）

(1) 地域における「歯と口の健康サポーター養成研修会」実施状況

(ア) 圏域名：泉州

【開催日時】平成30年12月20日（水）13時30分～15時30分

【開催場所】岸和田市保健センター3階研修室

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

和泉市歯科医師会理事 西野 武四

泉佐野泉南歯科医師会副会長 戸口 能全

【参加者】10名

【参加校】7校

【研修会の進行表】

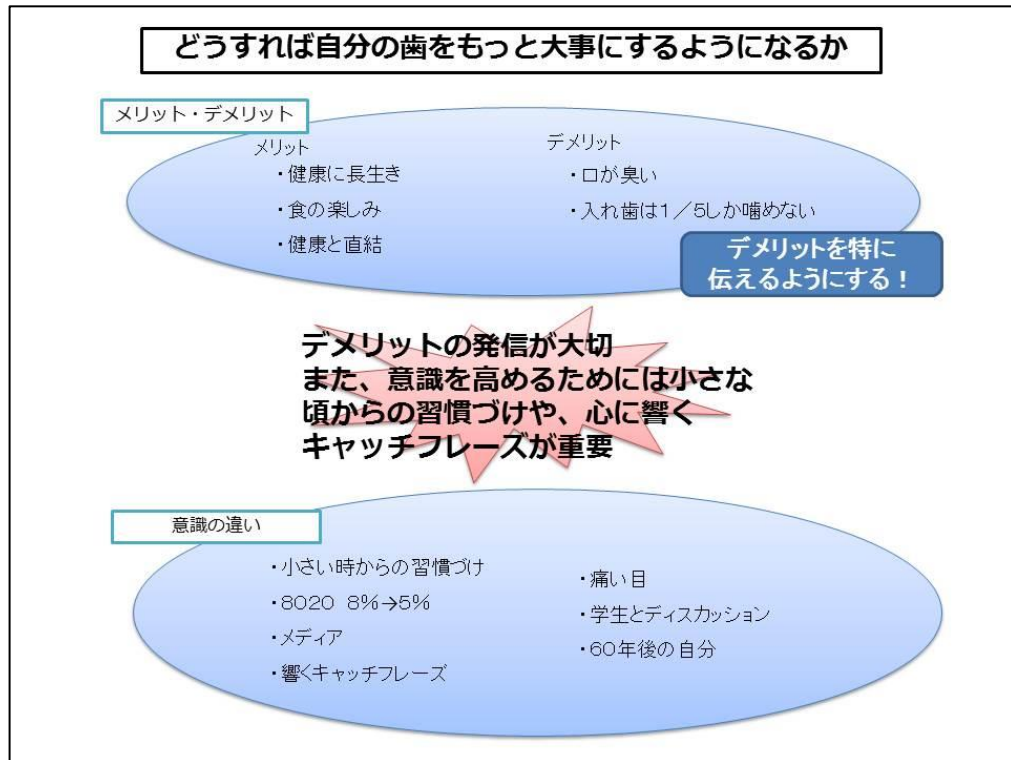
時間	内容
13:30～13:35	開会あいさつ
13:35～13:45	事前説明1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における歯と口の健康づくりの意義について
13:45～14:10	事前説明2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
14:10～14:15	事前説明3 ワークショップの進め方
14:15～14:20	トイレ休憩
14:20～14:30	グループディスカッション
15:10～15:20	グループごとの発表
15:20～15:25	質疑応答、まとめ
15:25～15:30	アンケート記入
15:30	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

< Aグループ >

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：

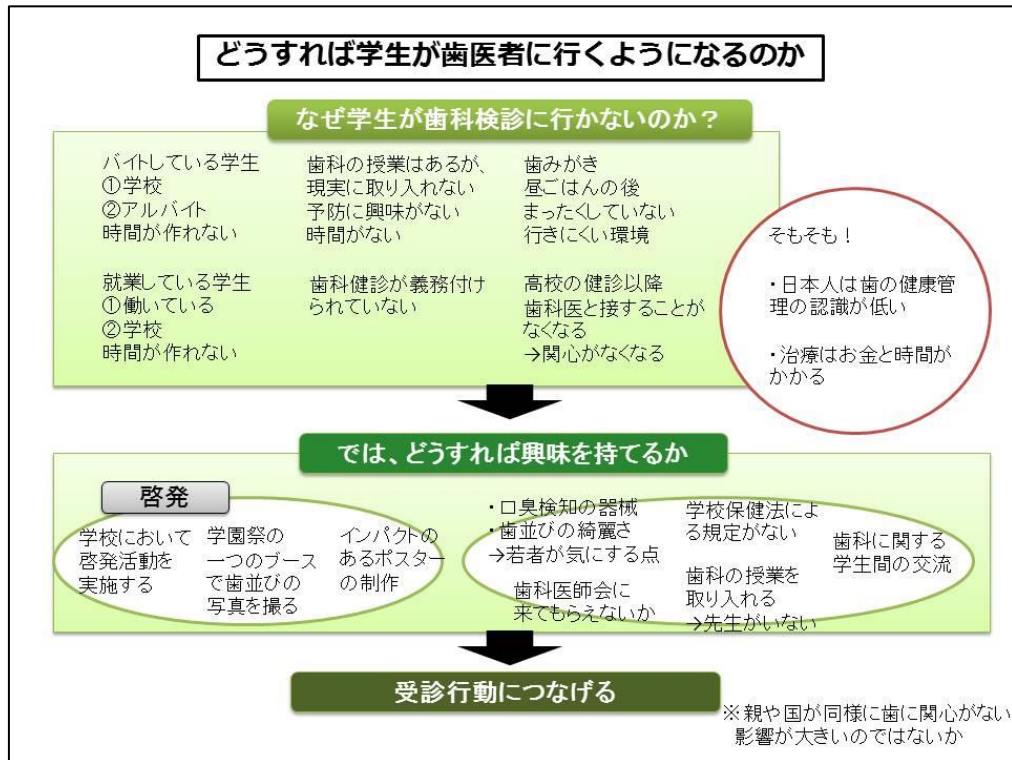


結論：メリットよりもデメリットを発信することが大切。また、小さな頃からの習慣づけや、心に響くキャッチフレーズが重要。

< Bグループ >

テーマ：どうすれば学生が歯医者に行くようになるのか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：学生には時間やお金がなく、歯科医院には行き辛い。その根本には親の意識の低さや、国の制度の無さが関係しているのではないか。

学校において可能な啓発活動を実施するとともに、学校保健法等で規定されるよう国が制度を変える必要がある。

(イ)圏域名：大阪市①

【開催日時】平成31年1月17日（木）13時30分～15時

【開催場所】淀川区歯科医師会館

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

東淀川区歯科医師会会長 堀田 善史

淀川区歯科医師会副会長 横山 文浩

【参加者】7名

【参加校】5校

【研修会の進行表】

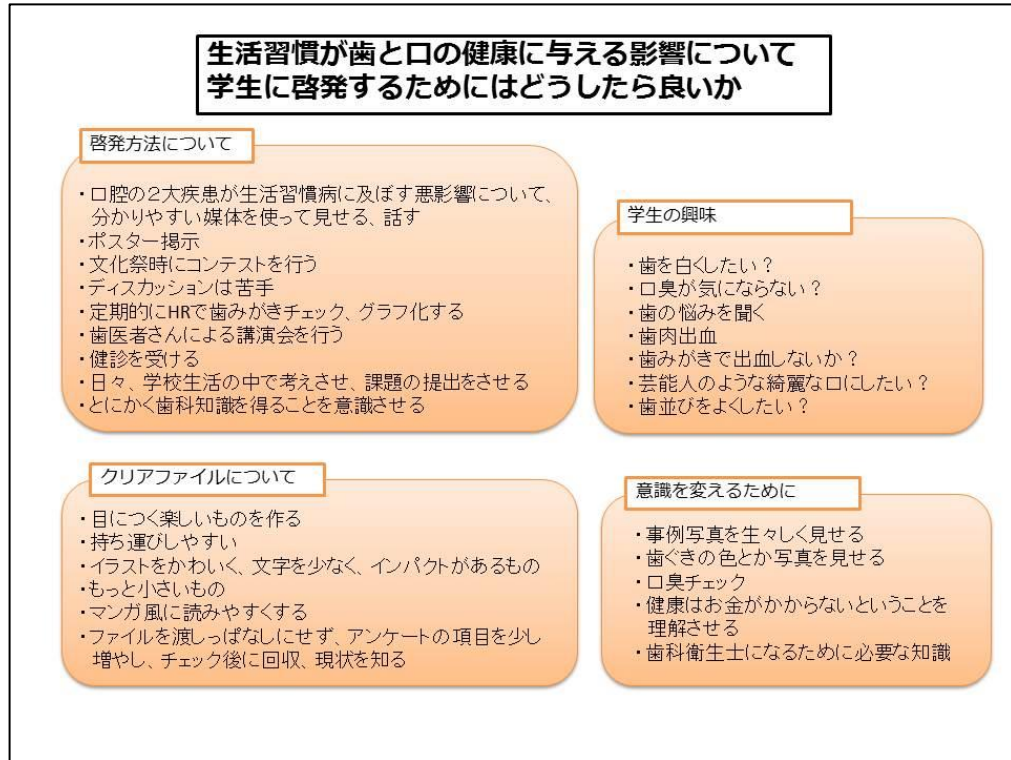
時間	内容
13：30～13：35	開会あいさつ
13：35～13：45	事前説明1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における 歯と口の健康づくりの意義について
13：45～14：00	事前説明2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
14：00～14：05	事前説明3 ワークショップの進め方
14：05～14：10	トイレ休憩
14：10～14：15	アイスブレイク
14：15～14：40	グループディスカッション
14：40～14：55	グループごとの発表、質疑応答、まとめ
14：55～15：00	アンケート記入
15：00	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

< Aグループ >

テーマ：生活習慣が歯と口の健康に与える影響について学生に啓発するために
はどうしたら良いか

グループディスカッション成果物（図案化）：

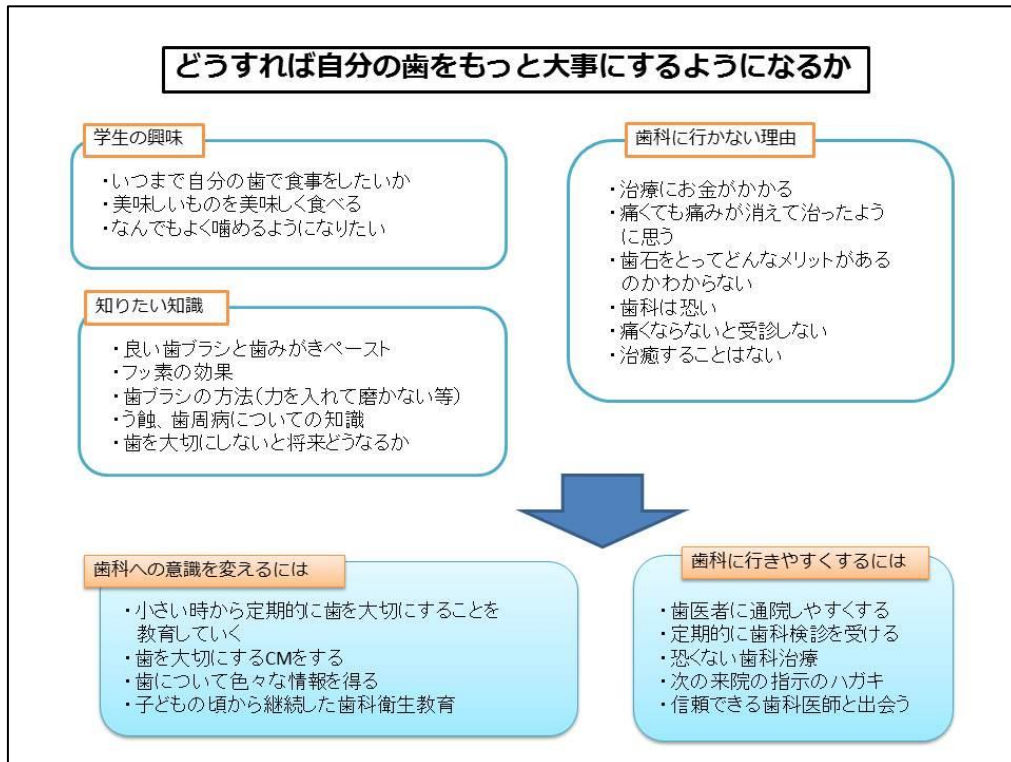


結論：学生の意識を変えるために、口臭等の学生の興味を引くテーマを中心に、
様々な啓発方法とインパクトのある媒体を用いて啓発することが重要。

< Bグループ >

テーマ：どうすれば自分の歯をもっと大事にするようになるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：小さい頃から継続した歯科衛生教育で歯科への意識を変える。また、定期的に歯科健診を受け、次の来院の際にはハガキ等でお知らせをくれるなど、歯科は恐くなく行き易いところだと認識することも必要。

(ウ)圏域名：大阪市②

【開催日時】平成31年2月7日（木）14：00～16：00

【開催場所】大阪府歯科医師会 第6会議室

【研修会講師（ファシリテーター）】（順不同・敬称略）

城東区歯科医師会専務理事 北垣 英俊

城東区歯科医師会理事 鹿谷 宗司

【参加者】9名

【参加校】7校

【研修会の進行表】

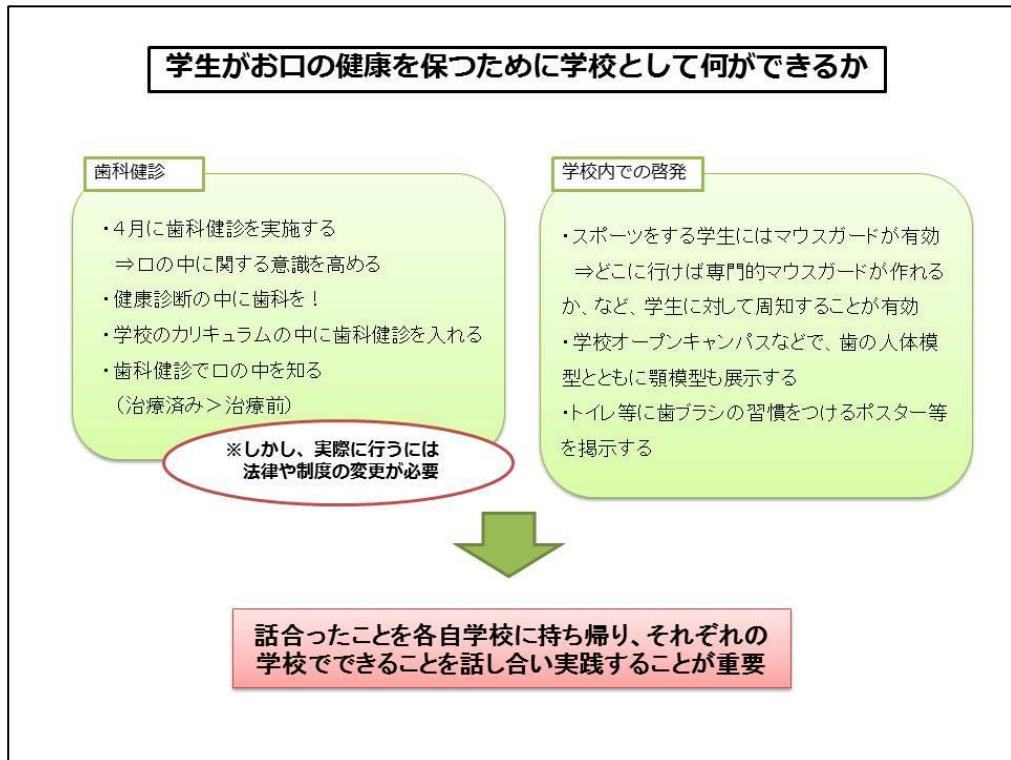
時間	内容
14：00～14：05	開会あいさつ
14：05～14：15	事前説明1 本事業実施背景と大学・短期大学・専修学校における 歯と口の健康づくりの意義について
14：15～14：45	事前説明2 歯と口の健康づくりの基礎知識と本日のテーマについて
14：45～15：00	事前説明3 ワークショップの進め方
15：00～15：10	トイレ休憩
15：10～15：30	グループディスカッション
15：30～15：40	グループごとの発表
15：40～15：55	質疑応答、まとめ
15：55～16：00	アンケート記入
16：00	閉会

【グループディスカッションのテーマと結論】

< Aグループ >

テーマ：学生がお口を健康に保つために学校として何ができるか

グループディスカッション成果物（図案化）：

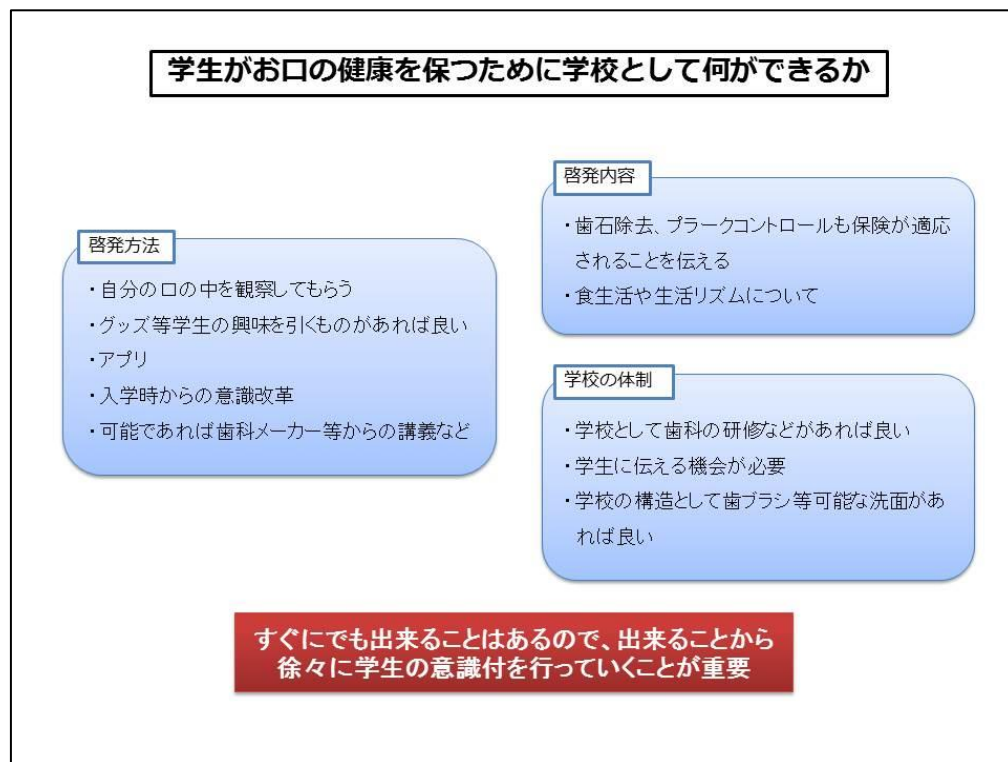


結論： 歯科健診の導入からポスター等の普及啓発まで、各学校で出来る対応は様々だと思うので、まずは今回話し合った内容を持ち帰り、各学校で出来ることを話し合い、実践することが重要。

< Bグループ >

テーマ：学生がお口の健康を保つために学校として何ができるか

グループディスカッション成果物（図案化）：



結論：歯ブラシが出来る洗面所の整備等、時間が必要なものもあるが、オリエンテーションで自分の口の中を観察してもらうなどすぐに実施可能なこともあるので、出来ることから徐々に学生への意識付けを行っていくことが必要。

(2) 「歯と口の健康サポーター養成研修会」研修会後のアンケート調査結果
(19校、26名の参加)

表5 今回の研修に参加し学校での歯科口腔保健の普及啓発が重要だと感じたかの確認

歯科口腔保健の普及啓発	人数	(%)
重要だと感じた	25	96.2
重要だと感じなかった	0	0.0
無回答	1	3.8
合計	26	100.0

表6 研修会までに実施した学校における歯と口の健康づくりに関する取り組みについて

取り組みを実施したか	校数	(%)
実施した	3	15.8
実施していない	15	78.9
無回答	1	5.3
合計	19	100.0

表7 取り組みの内容（学校における歯と口の健康づくりに関する取り組みを実施した3校対象、複数回答可）

取り組み内容	校数	(%)
歯科定期健診	1	33.3
歯科健康相談	0	0.0
学校行事等での普及啓発	2	66.6
その他	2	66.6
全体	3	

表8 研修内容を事前に知っていたかの確認

知識の有無	人数	(%)
ほとんど知っていた	0	0.0
ある程度知っていた	10	38.5
知らないことが多かった	12	46.1
ほとんど初めて知った	0	0.0
無回答	4	15.4
合計	26	100.0

表9 研修会や手引書の内容以外で知りたいこと

<ul style="list-style-type: none"> ・虫歯や歯周病と身体の病気の関係 ・自分の状況に最適な歯磨きグッズ ・フッ素塗布について ・20代の若者に対しての直近に発生するリスク ・具体的な口腔ケアの方法
--

表10 普及啓発用媒体（クリアファイル）の効果的な活用方法（配布場所）についての意見（複数回答可）

配布場所	回答数	(%)
一般定期健康診断	12	40.5
就職説明会	5	17.6
講義	17	59.5
その他	5	16.2
全 体	26	

表11 学生に対する普及啓発用媒体に関する意見

<ul style="list-style-type: none"> ・かわいいキャラクターの方が持ちやすい ・アプリやスマホを活用した方がいい ・フローチャート形式で自分のリスクを知るようなものも良い
--

表12 今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来るかについて

取り組みの実施	人数	(%)
可能だと感じた	20	76.9
難しいと思う	2	7.7
無回答	4	15.4
合 計	26	100.0

表13 今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みについて
(今後学校での取り組みが可能だと感じた20名対象、複数回答可)

実施出来そうな取り組み	人数	(%)
普及啓発の機会増加	10	50.0
行事等での啓発コーナーの設置	7	35.0
その他	4	20.0
全 体	20	

表 14 実施出来そうな取り組み「その他」の内容

-
- ・次年度は研修会を企画したい
 - ・授業内容を変えて啓発し、継続できるように試みる
 - ・講義（老年看護学概論）のなかで関連させて、話す機会をつくる
 - ・上司に伝えてみる
 - ・学校グループの中に歯科もあるので、検診につなげたい
-

2-4 学生に対する歯と口の健康づくり意識調査の実施

関西女子短期大学と梅花女子大学をモデル校とし、事業評価にあたり、学生を対象としたアンケート調査を実施した。アンケート集計結果を以下にまとめる。

また、平成26年度より本アンケートを集計しているため、「毎日の歯磨きの頻度」と「自分の口の中を鏡でチェックする頻度」の年度毎の結果についても記載する。

表 15 学生の所属

学校名・学科		1年	2年	3年	4年	小計
関西女子短期大学	養護保健学科	42	42	0	0	84
関西女子短期大学	医療秘書学科	26	39	1	0	66
関西女子短期大学	歯科衛生学科	103	105	115	0	323
関西女子短期大学	保育学科	83	120	0	0	203
関西福祉科学大学	リハビリテーション学科	170	167	99	124	560
梅花女子大学	情報メディア学科	49	51	19	27	146
梅花女子大学	日本文化創造学科	24	26	23	21	94
梅花女子大学	国際英語学科	29	8	24	24	85
梅花女子大学	こども学科	59	37	14	25	135
梅花女子大学	心理学科	46	54	31	19	150
梅花女子大学	食文化学科	64	60	20	28	172
梅花女子大学	看護学科	80	81	82	18	261
梅花女子大学	口腔保健学科	63	66	63	57	249
梅花女子大学	管理栄養学科	37	35	0	0	72
合 計		875	891	491	343	2,600

表 15-1 毎日の歯みがきの頻度

頻度	人数	(%)
1日4回以上	53	2.0
1日3回	631	24.3
1日2回	1,786	68.7
1日1回	120	4.6
1日0回	5	0.2
無回答	5	0.2
合計	2,600	100.0

表 15-2 毎日の歯みがきの頻度の変化

頻度	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
1日4回以上	9	1.3	5	0.5	35	1.7	42	2.0	53	2.0
1日3回	108	15.8	187	20.0	434	21.1	510	23.9	631	24.3
1日2回	507	74.4	688	73.5	1439	69.9	1466	68.6	1786	68.7
1日1回	58	8.5	55	5.9	146	7.1	111	5.2	120	4.6
1日0回	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	0.2	5	0.2
無回答	0	0.0	1	0.1	3	0.2	2	0.1	5	0.2
合計	682	100.0	936	100.0	2,057	100.0	2,136	100.0	2,600	100.0

表 16 日常的に使用している口腔衛生用品（複数回答可）

頻度	回答数	(%)
歯ブラシ	2,506	96.4
電動歯ブラシ	136	5.2
歯磨剤	1,740	66.9
液体ハミガキ	162	6.2
洗口液	211	8.1
歯間ブラシ	292	11.2
デンタルフロス	357	13.7
舌ブラシ	174	6.7
その他	52	2.0
特になし	4	0.2
全体人数	2,600	

表 17 口に関することで気になること（複数回答可）

内容	回答数	(%)
むし歯	955	36.7
知覚過敏	514	19.8
親知らず	626	24.1
口臭	570	21.9
顎の関節	469	18.0
歯並び	954	36.7
歯の着色	892	34.3
歯と歯の間に食べ物が挟まる	408	15.7
歯ぐきの状態	388	14.9
その他	45	1.7
特になし	276	10.6
全体人数	2,600	

表 18 歯ぐきの状態について当てはまる症状（複数回答可）

あてはまる症状	回答数	(%)
歯ぐきが腫れている	201	7.3
歯を磨いたときに血が出る	415	15.4
歯ぐきが下がって歯の根が出ている	70	2.3
歯ぐきを押しと膿が出る	4	0.1
歯がぐらぐらする	22	0.7
その他	15	1.0
特になし	1,856	71.4
全体人数	2,600	

表 19-1 自分の口の中を鏡でチェックする頻度

頻度	人数	(%)
頻度（1日1回位）にチェックする	1,016	39.1
ときどきチェックする	1,269	48.8
ほとんどチェックしない	298	11.5
無回答	17	0.6
合計	2,600	100.0

表 19-2 自分の口の中を鏡でチェックする頻度の変化

頻度	26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
頻繁(1日1回位)にチェックする	173	25.4	324	34.6	745	36.2	781	36.6	1,016	39.1
ときどきチェックする	404	59.2	501	53.5	1,034	50.3	1,056	49.4	1,269	48.8
ほとんどチェックしない	105	15.4	109	11.7	263	12.8	279	13.1	298	11.5
無回答	0	0.0	2	0.2	15	0.7	20	0.9	17	0.6
合計	682	100.0	936	100.0	2,057	100.0	2,136	100.0	2,600	100.0

表 20 歯周病を進行させる要因について

要因	喫煙(人)	(%)	糖尿病(人)	(%)
知っている	1,792	68.9	1,280	49.2
知らない	773	29.7	1,286	49.5
無回答	35	1.3	34	1.3
合計	2,600	100.0	2,600	100.0

表 21 ひとりで食事する頻度

頻度	人数	(%)
ほとんど毎日・毎食	450	17.3
1日に2回以上	363	13.9
1日に1回位	587	22.6
数日に1回程度	517	19.9
ほとんどない	647	24.9
無回答	36	1.4
合計	2,600	100.0

表 22 よく味わって、よく噛んで食べることについて

気を使っているか	人数	(%)
はい	1,323	50.9
いいえ	1,242	47.8
無回答	35	1.3
合計	2,600	100.0

表 23 よく噛むことの全身への働きについて

知っているか	人数	(%)
はい	1,710	65.8
いいえ	852	32.8
無回答	38	1.4
合計	2,600	100.0

表 24 「いただきます」「ごちそうさま」を言う頻度

頻度	人数	(%)
ほとんど毎日・毎食	1,709	65.7
1日に2回以上	313	12.0
1日に1回位	238	9.2
数日に1回程度	112	4.3
ほとんどない	191	7.4
無回答	37	1.4
合計	2,600	100.0

表 25 かかりつけ歯科医と一年以内の歯科健診について

かかりつけ 歯科医	一年以内の歯科健診							
	受診		未受診		無回答		小計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
持っている	868	--	527	--	6	--	1,401	53.9%
持っていない	244	--	912	--	3	--	1,159	44.6%
無回答	4		2		34		40	1.5%
小計	1,116	42.9%	1,441	55.4%	43	1.7%	2,600	100.0%

表 26 歯科健診の結果について

(この一年以内に歯科健診を受けた 1,116 人対象、複数回答可)

結果	回答数	(%)
むし歯	536	48.0
知覚過敏	34	3.0
歯周病	37	3.3
顎関節症	54	4.8
その他	282	25.3
全体人数	1,116	

3 事業評価

平成 30 年度事業では、府内に所在する大学・短期大学・専修学校 14 校に対し、歯と口の健康リーダー（公衆衛生担当歯科医師）が学校での歯と口の健康づくりについての取り組みを調査するとともに、歯と口の健康サポーター養成研修会への参加を促した。

歯と口の健康リーダーによる調査の結果、「歯科健診を実施している」と回答した学校が 14 校中 1 校であった。しかしながら、歯科健診を実施している 1 校は歯科衛生士専門学校であり、歯科関連学校以外の学生が高等教育終了後に「歯と口の健康」に関して意識を持つ機会が少ないことがわかる。

また、歯と口の健康サポーター養成研修会を 3 回実施し、平成 29 年度に歯と口の健康リーダーによる周知広報を実施した 24 校と、平成 30 年度に同様に周知広報を実施した 14 校、計 38 校のうち、19 校 26 名の学校担当者の参加があった。

研修会でのグループディスカッションでは、学校により事情が違うので研修会での話を各自学校へ持ち帰り、まずはそれぞれの学校で出来る活動から実施することが大切との意見があった一方で、親世代の意識の低さや国の制度がないことが青年期における歯科への意識の低さの一端ではないかという意見や、外部団体等からの講師派遣が必要といった意見が上がった。

研修会後のアンケート調査では、研修会までに学校で「歯と口の健康づくりに関する取り組み」を実施した学校は、研修会に参加した 19 校の内 15.8%であることが分かった。しかしながら同研修会に参加した後は、96.2%の参加者が「学校での歯と口の健康づくりの取り組みが重要だと感じた」と回答し、また、76.9%の参加者が「今後の学校での歯科口腔保健に関する取り組みが実施出来そうだと感じた」と回答した。

研修会で交換された意見とアンケート調査結果から、研修会参加後の「歯と口の健康サポーター」が学校において歯科保健に関する取り組みを実践することが期待できる。しかしその一方で、学校担当者としては国での法整備等がないと学生への効果的な意識付けが難しいと感じていることが分かった。

さらに、モデル校で実施したアンケートを参考にしてみると、歯みがきの頻度や口の中をチェックする頻度が徐々に改善されてきており、普及啓発を継続することで学生の行動変容の一助になっている可能性が考えられる。

以上のことから、本事業は青年期において歯と口の健康についての意識付けの機会として有用だと考えられる。しかしながら国の法整備や関係団体からの講師派遣といった支援が必要と感じているサポーターもおられることから、今後さらに青年期の歯科口腔保健に対する意識向上の為の取り組みを推進するためには、本事業で行った内容を基にして新たな取り組みを継続していくことが必要と考えられる。